

パスカルのパンセに就いて
パスカルに就て

矢 追 富夫
矢 島 嘉久

社會學專攻

W. G. Sumner の現實科學としての社會學論
社會的行動論

野 一 色 利衛
山 添 喜 信

佛敎學專攻

世親の唯識説に就いて

加 藤 一 誠

原始佛敎の優婆塞優婆夷

杉 本 正 美

龍樹の淨土敎に就いて

竹 田 玄 智

色受想行識無常苦無我につきて

上 野 順 瑛

原始佛敎に於ける戒律の一考察

鷺 岳 解 雄

新刊紹介

道家論辨牟子理惑論解説 神尾式春著

牟子の内容は佛敎を中心とした佛備道三敎の調和論である。

但し儒の上に道をおき、道の上に佛を置いてある。著者は不明であり、著作の時代も不明であるが、宋明帝の泰始年間陸澄が勅を奉じて撰んだ法論に始めて見えてゐるから、それ以前のものたるは明らかである。隋書經籍志に「牟子二巻後漢太尉牟融撰」とあるので、久しく作者を牟融と信じられてゐた

が、自序の内容と牟融の傳記が一致しないので牟融撰といふ説は破れる。しかし時代だけを生かして、この書を漢又は魏ごろの無名氏の著と見る説が出てゐるが、晋以後の偽作と考定する新説もある。

また昔は隋書に載する所によつて知られるが如く單行本があつた筈であり、その名は我が藤原佐世の見在書目にも見えてゐるのであるが、いつしか亡んだので、學者は梁僧佑の撰んだ弘明集の巻頭に収録してあるものを見るしか出来なかつた。

然るに朝鮮で牟子理惑論を筆削した「道家論辯牟子理惑論」と稱する古刊本が存在してゐた。神尾氏が今回之を發見し、原本通りの形式に寫眞銅版で醜刻されかつ、色々の文獻を涉獵して筆削本の解説を著された。筆削本と弘明集中の牟子とを比較すると、筆削本は弘明集以外の牟子から筆削したことが推定されるので、これによつて單行本牟子の存在したことも確定され、又弘明集本が單行本牟子そのまゝを載せたものでないことが明かとなる。更に筆削本には宋の何承天や慧琳等の説を引いてゐるが（これらの引用は弘明集本にない）、これによつて牟子の著作年代を宋と見る説に有力な證明を與へることになる。又この書が朝鮮で筆削されたと推定できるので、朝鮮の佛敎史や文化史の研究にも有力な材料となるであらう。神尾氏がこの書を醜刻されたのは、種々の點で學界に少なからざる寄與をなすであらう。（高橋）（京城光化門通り 神尾式春氏發行、非賣品）